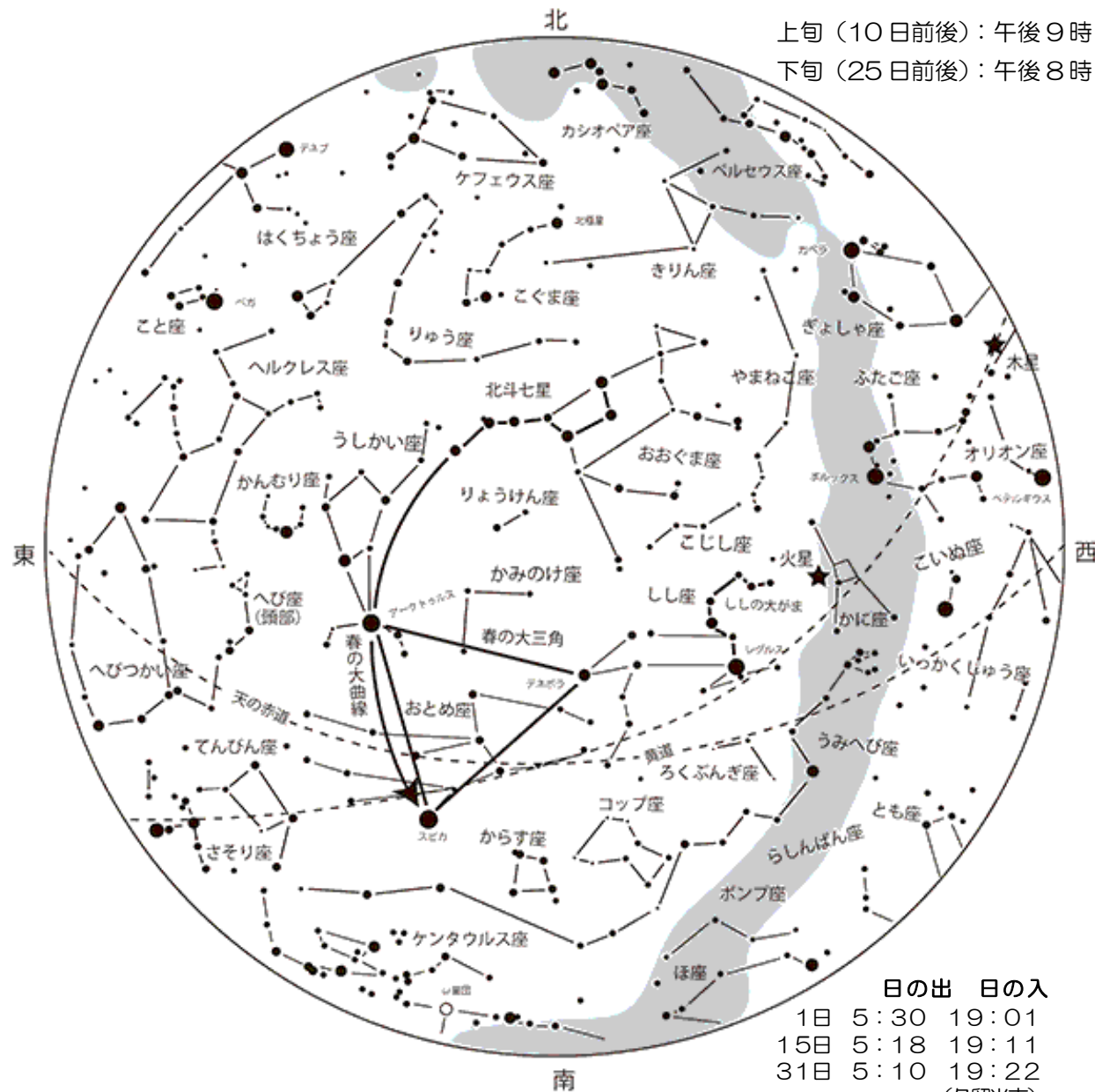


令和7年 5月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



★5月の星空案内

初夏の風が心地よく感じられる5月、夜空を見上げて星を観察する「星空さんぽ」をするに、よい季節となりました。さて、今月はどんな星や星座を見つけることができるでしょうか。

5月の星空では、『春の大曲線』や『春の大三角』をたよりに、春の星座を探すことができます。まず、見つけやすい星の並び「北斗七星」を探してみましょう。北の空に見える7つの星で作る「スプーン」または「ひしゃく」のような形の星の並びが「北斗七星」です。北斗七星を形作る7つの星のうち6つが2等星で、明るい星が並んでいるので、とても見つけやすいです。北斗七星を見つけたら、その北斗七星の「スプーン」の持ち手の部分の星の並びをカーブに沿って南へ伸ばしていくと、オレンジ色に輝くうしかい座の1等星アークトゥルスを見つけることができます。さらに南へとカーブをのばしていくと、白く輝くおとめ座の1等星スピカを見つけることができます。北斗七星からアークトゥルスを通して、スピカまでのばした大きなカーブは『春の大曲線』と呼ばれ、春の星座を探す目印になります。

もう1つ目印となるのが、アークトゥルスとスピカ、そして2等星のデネボラを結んでできる『春の大三角』です。このデネボラには、「ししのしっぽ」という意味があり、ここにはしし座があります。デネボラの西に輝く1等星のレグルスから「？マーク」をひっくり返したような星の並び『ししの大鎌』を目印にしし座を見つけることもできます。

実際の夜空でも『春の大曲線』や『春の大三角』をたよりに、春の星座探しを楽しんでみてください。

【惑星の見え方】（☆マークは、今月のおすすめです。）

水星（0.1～2.4等）：うお座→おうし座	観望に適さない。
☆金星（-4.2～-4.8等）：うお座付近	日の出前、東の低空で輝く。
☆火星（0.9～1.2等）：かに座→しし座	宵の頃、西の空に輝く。
木星（-2.0等前後）：おうし座付近	観測に適さない。
土星（1.2等前後）：うお座付近	観望に適さない。

注目の天文現象（5月）～3つの天体が一度に見られる様子を観察してみよう～

5月下旬の夜明け前の東の空には、明けの明星の金星がキラキラと輝いています。また、金星からやや右上に離れたところには、土星も見えています。金星はもちろん、土星も約1等級の明るさなので、空が薄暗い時間帯であれば、肉眼でもよく見えます。

この2惑星の近くに、5月23日（金）と24日（土）の2日間は、細い月がやってきます。両日ともに、肉眼で広く眺めたり、双眼鏡の同一視野内で観察したり、早朝の風景と一緒に撮影したりして楽しむことができます。

また、土星の環の消失が起こった後ですので、土星がどんな姿に見えるのかを天体望遠鏡で確かめてみることも面白いでしょう。

明るく輝く惑星と月の接近は、夜明け前の空で目を楽しませてくれる眺めです。早起きして観察してみたいかがでしょうか。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
4	日	☾ 上弦（22:52）	20	火	☾ 下弦（20:59）
7	水	土星の環の消失	27	火	● 新月（12:02）
13	火	○ 満月（01:56）			